

令和元年第3回大衡村議会定例会一般質問通告書一覧表

通告順位 1番	氏名 佐々木 春樹	質問形式: 一問一答
1. 件名 村鳥獣被害対策実施隊との連携強化を		
現在活動していただいている実施隊の皆様には、日々の御労苦に感謝しかない。		
最近では住宅地にも鳥獣が出没しだしている。けが人が出てからでは遅い。早急な対策が必要である。塩尻市では、罾にセンサーを付け捕獲をメールで通知している。これは日々の見回りを軽減できる。本村では止めさしの出来る方が5名しかいない。後継者を育てることは急務であり村との連携強化を求め質問する。		
1. 実施隊の現状はどうなっているか(人員、報酬、活動内容)		
2. 農作物の被害状況、熊・イノシシの出没状況は。実施隊との連携状況はどうか		
3. 実施隊からの要望等に対し、どのように対応しているのか		
4. 後継者育成のためにどのような取り組みをしているのか		
5. 報酬についての検証・検討はどうなったか		

通告順位 2番	氏名 小川 克也	質問形式: 一括質問
1. 件名 高校生通学費支援等について		
中学校を卒業した生徒は、それぞれ希望する高校へ進学しているが、通学する際の公共交通機関への交通費の負担が大きく、それらを軽減する上で、村長は通学費等の支援を考えるべきと思うが、村長の見解を問う。		

通告順位 3番	氏名 石川 敏	質問形式: 一問一答
1. 件名 イノシシ対策の抜本的な取り組みを		
本村では十数年前からイノシシの出没が見受けられるようになり、水田や畑作物への被害が発生している現状である。当初は大瓜地区だけが被害をうけていたが、ここ数年で村内全域に被害が拡大しており、その対策は急務である。		
村でも、イノシシ侵入防止柵の設置や電気柵の設置助成、さらに鳥獣被害対策実施隊による駆除対策を行っているが、イノシシによる被害拡大に追いついていない現状である。もっと効果的かつ抜本的な取り組みが必要ではないか。		
1. 村、猟友会、地区、関係機関の組織体制による連携した取り組み		
2. イノシシ対策の正しい知識の習得普及による啓発		
3. 侵入防止策、わなの点検や保守管理方法		
4. 捕獲した鳥獣の処理方法		

令和元年第3回大衡村議会定例会一般質問通告書一覧表

通告順位 4番	氏名 高橋 浩之	質問形式: 一括質問
1. 件名	インフルエンザワクチン接種助成の拡大を	
平成30年3月の一般質問において「インフルエンザワクチン接種助成の拡大を」と題して村長の所見を聞いたが、改めてワクチン接種助成の対象となっていない方への一部助成拡大を検討すべきと考える。		
現在の助成対象は、中学校3年生と65歳以上の方等に限定されているが、各家庭の中心となる働き手世代に助成措置がされていない。社会保険や共済組合の加入者には、全てではないが千円程度の助成があるので、零細な個人事業者が主である国保加入者にも、村として一部助成を図ってはどうか。		
2. 件名	遊休村有地の活用を図れ	
土地開発基金で所有した村有地は、それぞれに目的を持って取得され、その多くは有効に活用された。しかし、情勢の変化等によって遊休化している土地もあり、早急に新たな活用策を検討すべきである。		
一例として、大衡村に住みたくても住宅地がない現状を打破するために、当初の目的を変更して住宅地に転用することはできないか。また、民間に譲渡してそのアイデアを活かせるよう、行政が手助けすることを考えてはどうか。		

令和元年第3回大衡村議会定例会一般質問通告書一覧表

通告順位	5番	氏名	小川 ひろみ	質問形式: 一問一答
1. 件名 シルバー人材センターの考えは				
働くことをとおして生き甲斐を得て、地域社会の活性化に貢献しようと設けられているシルバー人材センターは、本村では確立されていない。一億総活躍社会を目指す中で、意欲ある高齢者が年齢に関わりなく働き続けることのできる生涯現役社会の構築が必要とされている。行政が後押しし「自主・自立、協働・共助」を促す独自の仕組みが今後必要になると考える。				
1. 高齢者の就業の現状と課題をどう捉えているか(アンケート調査等の実施は)				
2. 住み慣れた地域での共助・互助が今後必要になると考える。本村に適した取り組みとして住民主体の公共交通の運行も考えてはどうか				
3. 生活していく中で困りごとサポートなど、多種多様な取り組みを考えては				
2. 件名 企業との連携などでICTの活用を				
これからは農業・子どもの見守り・鳥獣被害対策・防災などあらゆる分野で情報基盤を活用した取り組みが求められる。今後の村の施策を効果的なものとするにはICTの活用は必須となると思う。これからのICT活用について村長の考えを問う。				
1. 農業の水管理など、スマート農業の取り組みをどうしていくのか				
2. 通学路への不審者や有害鳥獣の出没等の情報を保護者に伝える取り組みは				
3. イノシシ駆除に対するICTを使った取り組みは				
4. 異常気象による災害が増加している。危険箇所マップや避難情報を現在はどうしているか 今後はどうしていくのか				
5. 上記の取り組みを進める上で、ICTに精通した企業との連携を図る考えは				
6. 村としてICTの専門技能者を採用してはどうか				

通告順位	6番	氏名	文屋 裕男	質問形式: 一問一答
1. 件名 公営墓地の整備を検討してはどうか				
近年、お墓を建てても後継者がいない、子ども達に迷惑をかけたくない等の事情から、宗教・宗派を問わない墓地、公営墓地の整備を求める声を住民より聞かされる。				
少子高齢化、核家族、宗教との関わり、墓地に対する住民意識の変化、また墓地ニーズの多様化と、その環境は大きく変化してきている。				
他市町から移住された方、独立された方はこのような考えを持たれている方が多く、公営墓地整備の早期実現を願っている。村長の考えを問う。				

令和元年第3回大衡村議会定例会一般質問通告書一覧表

通告順位 7番	氏名 赤間 しづ江	質問形式: 一問一答
1. 件名 子ども・子育て支援事業の状況について		
0歳児～就学前の子どもの育ちは、家庭においても地域においても安心が保障された環境の中で行われなければならない。		
少子化、核家族化に加え、団地開発で子育て世帯が増えることで、より丁寧な子育て支援が求められる。子育て支援の充実を図る村として、保護者に寄り添った事業をどう進めるか。		
1. 子ども・子育て会議委員10人はどのような構成メンバーか、会議の協議内容は		
2. 子育て支援センター事業は、万葉こども園に委託しているが、担当課の関わりはどのようになっているか。保護者の相談内容とその対応について		
3. 社会問題化する児童虐待や育児放棄につながる産後うつ、育児ノイローゼ、保護者の孤立をなくすための取り組みについて		
4. 幼保一体の認定こども園が開園して8年目になる。村内の3～5歳児で他市町の私立幼稚園に入園する児童が増えている状況をどう捉えているか		

通告順位 8番	氏名 遠藤 昌一	質問形式: 一括質問
1. 件名 タクシー利用支援事業について		
タクシー券の利用者の目的地が同一の場所(例えば黒川病院)であったときに、利用者の自宅等からの距離によって、料金に不公平が生じているとの声が多く聞かれるが、地域間での不公平を是正するため、遠隔地の場合は支援を割増するなどの改善策を講じる考えはあるか。		

通告順位 9番	氏名 佐野 英俊	質問形式: 一問一答
1. 件名 期待に応える村誌編さんを		
既刊村誌刊行後36年間の歴史財産の整理への期待は大きなものがあり、村誌編さん事務の取り組みについて問う。		
1. 村誌編さんの基本方針と事務の進捗状況は		
2. 史実を着実に捉えた記録を後世へ伝承すべきで、関係職員間の意志の疎通は		
3. 歴史を知る村民の声を聴取し、編さん事務に取り組む努力は		
2. 件名 奥田地区内県道整備の要望強化を		
村発展の目玉として進められた奥田地区の開発であるが、集落内道路の整備計画は未定であり、将来を見据えた計画化を強く要望すべきではないか。		
1. 経過を掘り起こし、継続的に計画化を進めてもらうことが必要では		